

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「あおぞら・日本株式アライメント・ファンド“愛称 まくあき”」は、去る11月20日に第1期の決算を行いました。本ファンドはわが国の株式に投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行っております。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、法令に基づいて運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



交付運用報告書

あおぞら・日本株式
アライメント・ファンド

愛称

まくあき

追加型投信／国内／株式

第1期末 (2025年11月20日)	
基準価額	12,706円
純資産総額	9,195百万円
第1期 (2024年11月15日～2025年11月20日)	
騰落率	27.1%
分配金合計	0円

(注1) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

第1期

決算日
第1期 2025年11月20日
作成対象期間 (2024年11月15日～2025年11月20日)

あおぞら投信株式会社

東京都千代田区麹町6-1-1

■ホームページアドレス (基準価額をご確認いただけます。)

<https://www.aozora-im.co.jp/>



■お問い合わせ先

<お問い合わせ窓口>

050-3199-6343

受付時間：
営業日の午前9時から
午後5時まで

*お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

○本ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。また、運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)閲覧方法>

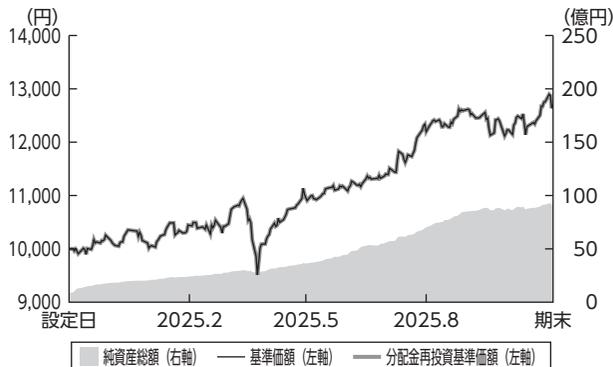
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「基準価額一覧」より該当のファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択



アンケートへのご協力をお願い
巻末(15ページ)をご参照ください。

運用経過 (2024年11月15日～2025年11月20日)

基準価額の推移



第1期首：10,000円

第1期末：12,706円 (既払分配金0円)

騰落率：27.1% (分配金再投資ベース)

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。

* 分配金再投資基準価額は、設定日 (2024年11月15日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

* 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、当期末において12,706円となり、2024年11月15日設定来のリターンは27.1% (信託報酬控除後、分配金再投資ベース) の上昇となりました。

パフォーマンスへのプラス寄与が大きかった銘柄は、三菱地所 (不動産業) とツルハホールディングス (小売業) でした。一方、マイナスの影響が大きかった銘柄は、エービーシー・マート (小売業) でした。

1 万口当たりの費用明細 (2024年11月15日～2025年11月20日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	137	1.230	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は11,156円です。
(投信会社)	(59)	(0.531)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(75)	(0.671)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	6	0.050	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監査費用)	(2)	(0.016)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(4)	(0.034)	目論見書等の法定書類の作成・印刷・届出および交付に係る費用ならびにファンドの計理業務およびこれらに付随する業務に係る費用 (注5)
合計	143	1.280	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注5) ファンドの計理業務等に係る費用が期中に対象外となりました。詳細は6ページのお知らせをご覧ください。

(参考情報)

経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した経費率(年率)は1.69%です。

経費率 (①+②)	1.69%
①このファンドの費用の比率	1.26%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.43%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

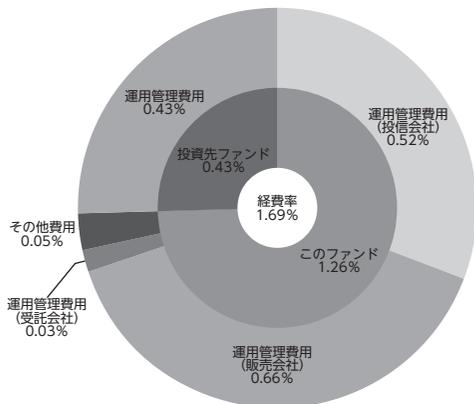
(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

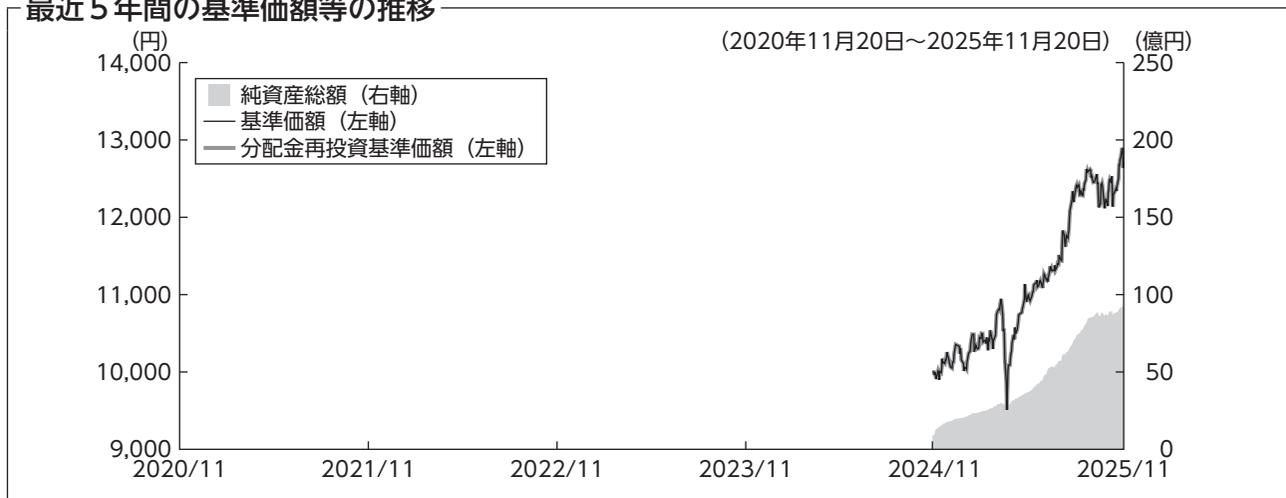
(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注7) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の本質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 本ファンドの設定日は2024年11月15日です。

決算日		2024年11月15日 (設定日)	2025年11月20日 (決算日)
基準価額	(円)	10,000	12,706
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	27.1
純資産総額	(百万円)	903	9,195

(注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。また、純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注2) 2025年11月20日の「分配金再投資基準価額騰落率」は、2024年11月15日からの騰落率で、年間騰落率とは異なります。

(注3) 本ファンドは、特定の指数を上回るまたは運動をめざした運用を行っていないため、また、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境

<株式市場>

当期の国内株式市場は、トランプ米大統領が掲げる政策の実現性が高まったと受け止められ、関税強化の警戒感と減税策や規制緩和の期待が交錯し株式市場は乱高下しました。2025年1月にはトランプ米大統領就任に伴う関税への懸念、日銀（日本銀行）による政策金利の引き上げ、また中国の生成AI（人工知能）企業が低コストAIモデルを発表した、いわゆる「DeepSeekショック」によりテクノロジー株を中心に利益確定売りに押され市場は軟調に推移しました。トランプ米大統領が2025年4月2日の「解放の日」に発表した大規模な関税政策を受けて一時大幅に下落しましたが、その後、各国との関税交渉の進展や4-6月期の国内企業業績が想定ほど悪化しなかったことを背景に回復基調となりました。7月の参議院選挙では与党が敗北し、その後、石破首相は辞任を表明しました。10月の自民党総裁選挙を経て、高市首相が選出されたことに伴う積極財政への期待や、米中貿易摩擦の緩和、AI関連株を中心とした好調な企業決算も追い風となり、一段と上昇しました。期末にかけては、AI関連株に利益確定が見られたものの、国内株式市場は堅調に推移しました。

<短期金融市場>

短期金融市場においては、2024年3月19日に日銀がマイナス金利政策の解除を決定した後、2024年7月、2025年1月に段階的に政策金利の引き上げを行う中、無担保コール翌日物プラス圏で推移したほか、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りは+0.10%前後から+0.45%前後で推移しました。

当該投資信託のポートフォリオ

本ファンドの運用方針に従い、主要投資対象である「ルクセンブルク籍外国証券投資法人（円建て）オービスS I C A V ジャパン・エクイティ・ファンド」に投資を行い、実質的に日本の株式等に投資することで信託財産の長期的な成長を目指して運用を行いました。

組入れファンドにおける当期の運用状況は以下の通りです。

<ルクセンブルク籍外国証券投資法人（円建て）オービスS I C A V ジャパン・エクイティ・ファンド>

当期は、参考指標である税引後配当込みTOPIXが22.7%上昇するなか、本ファンドのパフォーマンスは27.1%の上昇となり、参考指標を上回りました。

最大のプラス寄与銘柄となったのは三菱地所でした。競合である住友不動産の株式をアクティビスト（物言う株主）ファンドが取得したとの報道を受け、業界全体における資本配分の改善期待が高まり、同社株はアウトパフォームしました。さらに好調な決算発表を受け、株価が上昇しました。保有不動産の賃料引上げによって利益が押し上げられたことに加え、経営陣が掲げた政策保有株式解消施策は市場予想を上回る規模となりました。株価の上昇を受け、保有比率を削減しましたが、同社は引き続き上位保有銘柄となっています。

2番目のプラス寄与銘柄となったのはツルハホールディングスでした。ウエルシアホールディングスとの経営統合の詳細が発表されたことを受け、同社株は4月にアウトパフォームしました。ウエルシアホールディングスとの経営統合によって生じるシナジー効果への期待を受け、セルサイドアナリストが楽観的な見

方を強めたことが一因となり、直近数ヵ月にわたり、同社の株価はイオンが提示したTOB（株式公開買い付け）価格を上回る水準で推移しています。さらに、10月に発表された四半期決算が、市場予想および当初の業績予想を上回ったことを受け、株価は一層上昇しました。

一方で、最大のマイナス寄与銘柄となったのはエービーシー・マートでした。国内事業における利益率の低下および韓国事業の低迷により、4-6月期決算における営業利益が市場予想を下回ったことを受け、株価は下落しました。株価の下落は構造的な要因によるものではなく、消費者センチメントの一時的な悪化に起因していると考えており、保有比率を積み増しました。

<あおぞら・マネー・マザーファンド>

本邦通貨表示の短期公社債等を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いました。有担保コール翌日物および金銭信託による運用を続けており、当期末時点では有担保コール翌日物が主要投資対象となっています。

当該投資信託のベンチマークとの差異

本ファンドは運用の目標となるベンチマークや参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金（1万口当たり、税引前）

本ファンドの収益分配方針に従い、基準価額水準、市場動向等を勘案し、当期においては無分配といたしました。留保金の運用については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・％、1万口当たり、税引前）

	第1期	
	自 2024年11月15日	至 2025年11月20日
当期分配金	-	
（対基準価額比率）	-	
当期の収益	-	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	2,705	

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<本ファンド>

今後も当初の運用方針に従い、主要投資対象である「ルクセンブルク籍外国証券投資法人（円建て）オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンド」に投資を行い、実質的に日本の株式等に投資をすることで信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

<ルクセンブルク籍外国証券投資法人（円建て）オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンド>

直近の国内株式市場は、極端な円安とAI・テクノロジー関連銘柄への資金流入が相場を牽引し、輸出関連銘柄が相対的に優位となりました。一方、内需関連企業の業績は底堅く、輸出関連銘柄への注目が高まる中、割安感が一段と高まっていると考えています。高市内閣の発足を受けて円安が続くとの見方もありますが、現在の極端な為替水準が長期に持続するとは考えていません。

当戦略では「投資資産の恒久的な損失リスクを抑えながら、高い長期リターンが見込める銘柄に投資する」という運用哲学のもと、為替の影響が大きい輸出関連銘柄や短期的に過熱した銘柄を避ける一方で、為替の影響を受けにくい優良な内需関連銘柄への比重を高めています。特にドラッグストア、人材サービス、不動産・建設業関連など、堅調な国内需要や構造改革の追い風を享受できる分野を注視しています。また、中型株における資本効率改善や経営改革は引き続き大きな投資機会と考えています。東京証券取引所による要請に加え、アクティビストによる投資やプライベートエクイティ（未公開株式）による買収の活発化が進んでいるため、それらの圧力が後押しとなり、今後さらに資本効率の改善が期待されます。今後も長期的な価値向上を見極めながら、内需企業や中型株を含む魅力的な投資機会へ、運用哲学に沿った投資を継続していく方針です。

お知らせ

- ファンドから支弁する信託事務の諸費用等のうち、ファンドの計理業務に係る費用を対象外とするため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

（信託約款変更適用日：2024年12月11日）

■運用報告書の原則電子化

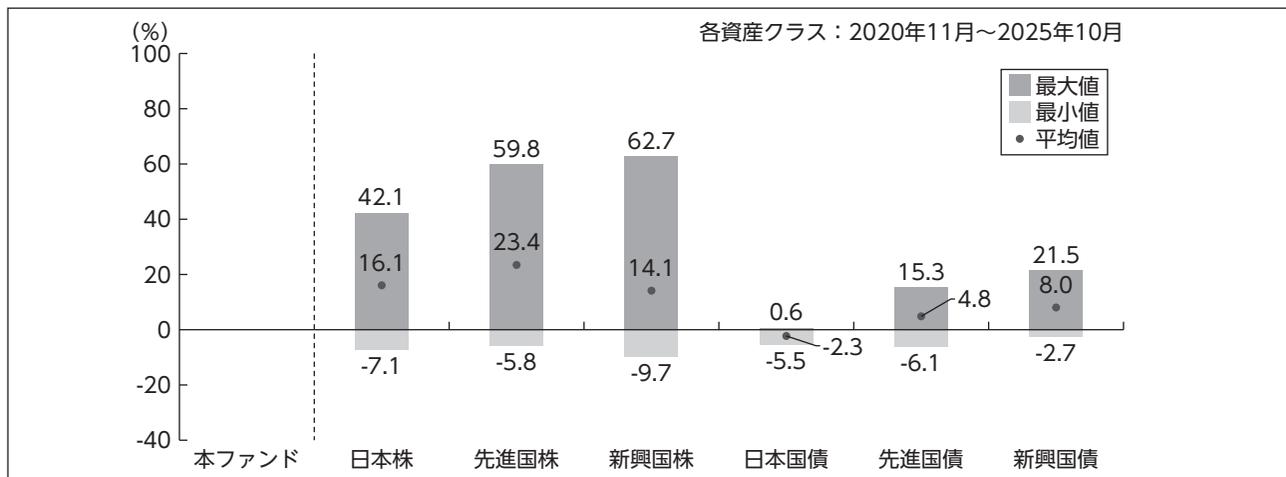
投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款の記載変更を行いました。2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

（信託約款変更適用日：2025年4月1日）

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	原則として無期限
運用方針	わが国の株式に投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルク籍外国証券投資法人（円建て） オービスS I C A V ジャパン・エクイティ・ファンド ・親投資信託 あおぞら・マネー・マザーファンド
運用方法	①別に定める投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）を通じ、主としてわが国の株式に投資します。 ②投資信託証券の組入比率は原則として高位を保ちます。 ③非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額等の場合は分配を行わない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2020年11月～2025年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、本ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示したものです。ただし、本ファンドは2024年11月15日に設定されたため、本書作成日現在、年間騰落率を表示することができません。

※上記は、本ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株 … 配当込みTOPIX

先進国株 … MSCI-KOKUSA1インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 … MSCIエマーシング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 … NOMURA-BPI国債

先進国債 … FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 … JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

※配当込みTOPIX (以下「TOPIX (配当込み)」といいます。)の指数値及びTOPIX (配当込み)に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX (配当込み)に関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIX (配当込み)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIX (配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

※MSCI-KOKUSA1インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

※MSCIエマーシング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

※NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す指数です。なお、NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

※FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当該指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当該投資信託のデータ

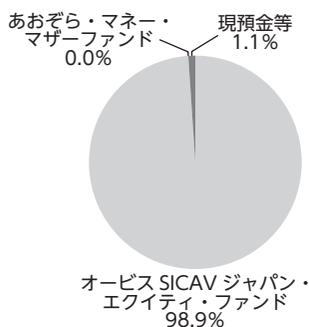
当該投資信託の組入資産の内容（2025年11月20日現在）

○組入ファンド（2銘柄）

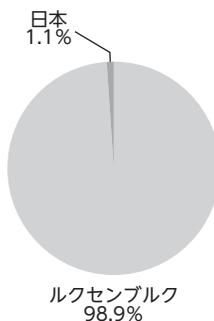
	組入比率
オービスS ICAVジャパン・エクイティ・ファンド	98.9%
あおぞら・マネー・マザーファンド	0.0%
その他	1.1%

※組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



※比率は純資産総額に対する割合です。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※「現預金等」がマイナスとなる場合がありますが、未払金が一時的に現預金残高を上回ることなどによるものです。

○純資産等

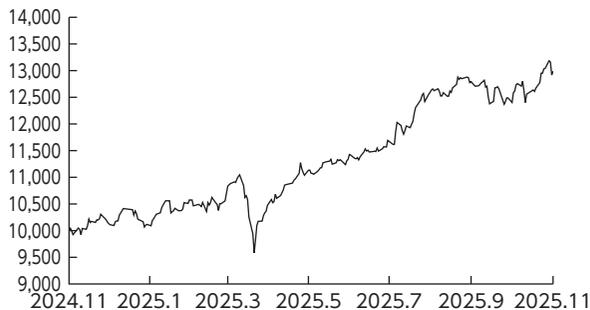
項目	当期末
	2025年11月20日
純資産総額	9,195,908,811円
受益権総口数	7,237,620,825口
1万口当たり基準価額	12,706円

※当期中における追加設定元本額は7,407,863,397円、同解約元本額は1,073,339,877円です。

組入上位ファンド（銘柄）の概要

オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンド

基準価額の推移（2024年11月19日～2025年11月20日）



(注) 当該ファンドの当初組入れ時（2024年11月19日）を10,000として指数化しております。

○上位10銘柄

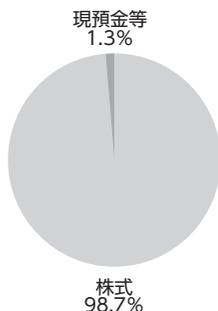
銘柄名	業種名	国・地域	通貨	比率
1 アサヒグループホールディングス	食品	日本	円	7.7%
2 三菱地所	不動産業	日本	円	7.4%
3 大和ハウス工業	建設業	日本	円	5.7%
4 サンドラッグ	小売業	日本	円	5.5%
5 ツルハホールディングス	小売業	日本	円	5.4%
6 GMOインターネットグループ	情報・通信業	日本	円	4.5%
7 クボタ	機械	日本	円	4.1%
8 スギホールディングス	小売業	日本	円	3.8%
9 T & Dホールディングス	保険業	日本	円	3.7%
10 長谷工コーポレーション	建設業	日本	円	3.4%
組入銘柄数			44銘柄	

(注) 銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

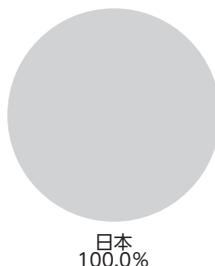
○1万口当たりの費用明細

オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンドのAnnual Reportには、1万口当たりの費用の明細が開示されていないため、記載できません。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2024年12月31日現在のものです。本データは、オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンドのAnnual Reportを基に委託会社が作成したものであり、月次レポート等の開示資料の区分と異なる場合があります。

(注2) 1万口当たりの費用の明細は組入れファンドの直近の決算期のもので、費用項目については2ページの注記をご参照ください。

(注3) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、資産別・国別・通貨別配分の比率は、合計が100%にならない場合があります。

(注4) 「現預金等」がマイナスとなる場合がありますが、未払金が一時的に現預金残高を上回ることなどによるものです。

<参考情報>

■指定投資信託証券の運用状況

- (注1) 指定投資信託証券の運用状況データは2025年10月31日現在のものです。本データは、オービス・インベストメント・マネジメント・リミテッドからの情報を基に委託会社が作成したものです。
 (注2) 各項目の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。また、各項目の比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

オービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンド

○組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	通貨	国	比率
1	ツルハホールディングス	小売業	円	日本	7.6%
2	大和ハウス工業	建設業	円	日本	7.1%
3	三菱地所	不動産業	円	日本	6.0%
4	三井不動産	不動産業	円	日本	5.1%
5	サンドラッグ	小売業	円	日本	4.9%
6	GMOインターネットグループ	情報・通信業	円	日本	4.5%
7	GMOペイメントゲートウェイ	情報・通信業	円	日本	3.9%
8	エービーシー・マート	小売業	円	日本	3.7%
9	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	3.2%
10	サイバーエージェント	サービス業	円	日本	3.2%
	組入銘柄数			41銘柄	

○業種構成比

業種	構成比
小売業	25.4%
不動産業	13.8%
サービス業	13.3%
情報・通信業	12.5%
建設業	9.8%
銀行業	6.3%
卸売業	4.0%
非鉄金属	3.1%
保険業	2.5%
食料品	1.8%
その他	6.1%
現預金等	1.3%
合計	100.0%

○組入れファンドの成功報酬の推移

投資対象ファンドであるオービスS I C A Vジャパン・エクイティ・ファンドは運用の基本報酬を徴収せず、払い戻しメカニズム（リファンダブル方式）のある成功報酬体系を適用しています。

	ベンチマークに対する超過収益率	月中に発生した成功報酬 ^(※1) ÷ 純資産総額
2024年10月	-	-
2024年11月	1.42%	0.52%
2024年12月	-1.06%	-0.39%
2025年1月	3.40%	1.27%
2025年2月	2.17%	0.81%
2025年3月	3.20%	1.18%
2025年4月	4.04%	1.49%
2025年5月	-2.09%	-0.82%
2025年6月	1.03%	0.39%
2025年7月	1.01%	0.37%
2025年8月	0.22%	0.09%
2025年9月	-2.09%	-0.80%
2025年10月	-6.64%	-2.63%
設定来	4.18%	1.48%

* 1：プラスの成功報酬の場合：ベンチマークを上回った部分の38%がファンドから成功報酬として日々支払われ、フィー・リザーブ*にプールされます。マイナスの成功報酬の場合：ベンチマークを下回った部分の38%がフィー・リザーブからファンドに日々払い戻されます。

※フィー・リザーブは、ファンドのパフォーマンスがベンチマークを下回った場合に備え、ファンドがベンチマークを上回った場合に支払われる成功報酬をプールします。オービス社の報酬は、このフィー・リザーブにプールされたプラスの成功報酬から支払われます。その額は、年率でフィー・リザーブの残高の3分の1に相当する額が支払われます。なお、フィー・リザーブの残高が0未満の場合は、オービス社への報酬の支払いは発生しません。

(注) 上記の各数値は、本ファンドの基準価額算出時に使用する組入れファンドの対象期間に合わせて月末前営業日を基に計算しています。

(注) 「現預金等」がマイナスとなる場合がありますが、未払金が一時的に現預金残高を上回るなどによるものです。

組入上位ファンド（銘柄）の概要

あおぞら・マネー・マザーファンド

基準価額の推移（2024年3月16日～2025年3月17日）



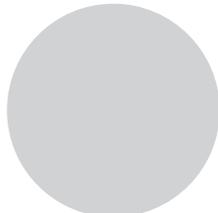
○上位10銘柄

2025年3月17日現在、該当事項はありません。

○1万口当たりの費用明細

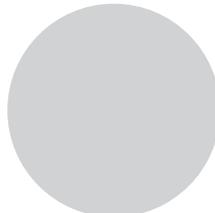
該当事項はありません。

○資産別配分



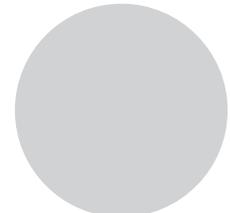
現金
100.0%

○国別配分



日本
100.0%

○通貨別配分



日本円
100.0%

(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2025年3月17日現在のものです。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(注3) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

【Webアンケートご回答のお願い】

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

ご投資いただいております「あおぞら・日本株式アラインメント・ファンド“愛称 まくあき”」につきまして、受益者の皆さまに本ファンドおよび当社に関するご意見等をお聞かせいただきたく、アンケートへのご回答にご協力をお願いいたします。
何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【ご回答方法】

- ①スマートフォンからご回答いただく場合は、右記の画像を読み取っていただき、ご回答をお願いいたします。
- ②パソコンからご回答いただく場合は、以下のURLより、ご回答をお願いいたします。
URL：https://questant.jp/q/makuaki_202511



あおぞら投信からのお知らせ

【動画コンテンツのご案内】

弊社Webサイトにて、各種動画コンテンツをご用意しております。

URL：https://www.aozora-im.co.jp/movie/?utm_source=makuaki&report_202511



マーケット解説動画やファンドの運用状況についての動画を今後とも掲載していく予定でございます。
ぜひご覧くださいませ。

【公式SNSのご案内】

弊社は各種公式SNSアカウントにて、情報発信を行っております。詳しくは弊社Webサイトをご覧ください。

URL：https://www.aozora-im.co.jp/aozorafarm/sns.html?utm_source=makuaki&report_202511



◆フォロー方法

上記URLをクリックまたは画像を読み取っていただき、各SNSアカウントへ移動後、「フォローする」をクリックしてください。または、各SNSアカウントより「あおぞら投信株式会社」を検索していただき、「フォローする」をクリックしてください。

＼皆さまからのフォローやいいね！をお待ちしております！／

